


要領様式第2号

出張報告届


令和 元年 10月 24日


吹田市議会議長様

会 派 名.....日本共産党吹田市議会議員団


出張者氏名.....竹村 博之 


.....塩見 みゆき 

.....柿原 真生 

.....玉井 美樹子 


.....山根 建人 

.....村口 久美子 

.....益田 洋平 

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	9日：府中市役所、10日：Fujisawa サステイナブル・スマートタウン		
期 間	令和 元年 10月 9日から 10月 10日まで 2日間		
出張の成果	別紙のとおり		
備 考		認 印	会派代表者
			



会派視察報告

日本共産党吹田市会議員団

- 視察日時 2019年10月9日(水)1時30分～15時30分
- 視察先 東京都府中市
- 出席者 竹村博之 柿原真生 玉井美樹子 山根建人 村口久美子
益田洋平 塩見みゆき
- 視察項目 新庁舎建設事業について

主な質問項目

1. 整備方針として現地建て替えを選択した理由

→ 平成23年に建替えについての基本構想を策定するにあたり、前年度に市政世論調査を実施し、889人の回答を得た。76.1%の市民が現在の場所に庁舎の建て替えを希望。同様の調査を来庁者にも行ったところ、回答された方の69.7%が現地建て替えを希望しているという結果であった。その後、庁舎建設検討協議会にその調査結果を報告し、現地建て替えに決定した。

2. 1棟ではなく、2棟による設計を選択した理由

→ 1棟という案もあったが、その場合、13階建ての構想になる。庁舎の隣は、大國魂神社があり、周辺にも高層の建物はないため、景観的視点で考えた。また、工事を2期に分けて行えることから、仮設の庁舎を用意する必要もないことから2棟(おもや・はなれ)による設計を選択した。

3. 環境に配慮した特徴的な設備について

→ CASBEEにおけるSランクが取得できる計画である。

①穴の開いたステンレスパネルを庇として配することで、直射日光を避け、通気も良く、各フロアで日射負荷低減につながり、空調利用等電力消費の削減につながる。

②BEMS(ベムス)ITを活用して照明や空調を制御して最適なエネルギー管理をおこなう管理システムを導入。③雨水をトイレとう雑用水として利用する。④地下水利用で上水道代の節約と災害時にも利用できる。

4. 設計へのBCP(事業継続計画)や受援計画等の反映状況及び手法

→ 立川断層の影響を考え、それに耐えうる免震機能を備える。電源は、庁舎は現在も北部と南部の2箇所から電源をとっている。非常用電源に加え、軽油での発電機能を3日72時間対応できるようにしている。受援計画の方は、ボランティアの受け入れ等、社会福祉協議会と連携し、はなれの1階の多目的ルームを考えている。

5. 施設のユニバーサルデザインやLGBTへの配慮について

→ トイレは車イスの形、大きさも様々であり、着替えができるなど多様なニーズに応えられるよう考えた。点字ブロックは視覚障害者の方には5mm必要であり、逆に高齢者の方に

としては、つまずきの原因になるため、建物内では5mmより低くした。また、音声案内を導入する。

LGBTへの対応は、TOTOのセミナーなどにも参加した。LGBTに対する理解がまだ十分でないため、専用のトイレを設置しても逆に入りにくいのではないかと考え、誰でも利用できるトイレを多く設置して様子を見ることにした。

6. 市民や障害者団体への説明会を開催した理由

→ 市民の関心が高く、節目、節目で市報等でも報告し、意見を聞く努力をした。ただ、説明会だけにすると参加者は特定の人たちに成りがちなので、様々なイベントを利用して、意見を聞くようにした。障害者団体との意見交換では、気づかないこともたくさんあり、勉強させていただいた。様々な障害に対応できるように意見を参考にした。

7. 市民等の意見を反映した点

→ パブリックコメントやアンケートでいただいた意見をデータ化した。庁舎機能に関する意見は9割が反映した。費用面については、予定よりも上がらないようにと言う意見があったが、オイルダンパーを入れることで高くなる可能性があるが、市議会の方には説明をしている。

8. 新庁舎建設推進を担う町内組織・体制及び外部委員の登用等について

→ 耐震診断により、耐震指針を下回っていることが判明し、対策総務部に担当を置き、昨年度から行政管理部に推進室を置く。そこに技術職を配置したいが、技術職員の確保が難しい。工事が始まると技術職を配置する必要がある。

9. 新庁舎建設に対する市議会の動向及び主な意見

→ 市議会では市庁舎対策特別委員会を設置。議会は推進的な意見が多い。庁舎建て替えに関わって議場や議会棟検討委員会を議員14名で設置し、議場、委員会室、控え室など検討している。

10. 必要となる事業費の内訳及び財源構成について

→ 基金と起債です。平成16年から積み立てて100億円になった。一部取り崩し平成30年時点で79億円。国の補助はない。社会資本整備交付金を一部活用している。

11. 基本方針策定から基本設計までの費用

→ 基本方針策定に約1600万円、基本設計と実施設計に約2億7000万円、コンストラクションマネジメントに約4000万円、執務室の備品等の環境調査費に約1100万円。

12. 他の行政機能・庁舎との統合等も含め、建て替えにより期待されるランニングコストの縮減効果について

→ 北側にある第2庁舎の防災危機管理課と大國魂神社内の歴史資料館を統合させる。

LEDをはじめ、空調などのシステム変更により、電気料金は縮減できると考える。

13. 公募型プレゼンの選定委員のメンバーについて

→ 市のまちづくり関係者として明治大学建築科教授、景観の関係者として、芝浦工大教授など、専門学識者4名。プレゼンは公開し、審査は非公開で実施。

14. 広報で丁寧に市民に知らせている。広報はどのようにして市民に届けられるのか
→ 新聞折り込み及び市内のコンビニに置いている。希望者には送付。新聞購読者の減少もあり、広報だけでなく、かわら版としてホームページ、公共施設に置くなどして対応してきた。
15. 新庁舎に組合事務所はあるのか。その事で市民や議会から意見はあったのか
→ 組合事務所は今まで通りある。市民、議会から特に何もない。現在も貸し付けているので、費用についてはこれから組合との協議になる。
16. コンストラクションマネージメント費用はどうやって決まるのか
→ 工期によって決まる。
17. 耐震性能が構造耐震指針 0.6 を下回っていたとのことだが、国からの補助金等は全くないのか
→ 庁舎建替えに対する補助金はない。ただ、社会資本整備交付金が基本設計に対し約 400 万円、実施設計に対し約 1500 万円、合計約 1900 万円交付があった。
18. 工事の公募をする際、一括発注で考えているとのことだが、それでは地元事業者がはいれないのではないのか
→ 審査の総合評価の内容に、単に工事の下請けに市内事業者を入れると言う事だけでなく、広く地域経済に貢献する提案（工事期間中、地元市内業者から弁当を買う、物品を購入する等含め）をした事業者に対し、評価できるよう検討している。

会派視察報告

2019年10月

■視察地

神奈川県藤沢市

■日時

2019年10月10日午前10時～12時

■視察テーマ

「Fujisawa サステイナブル・スマートタウン (Fujisawa SST) について」

■内容

本市の健都に計画されている「Suita SST プロジェクト」の先進事例として「Fujisawa SST」を視察。最初にスクエアセンターで紹介ビデオを視聴、「Fujisawa SST」の理念やこれまでの経過、現状のまちづくりについて説明がありました。

そもそもの発端は約50年前から操業していた工場(パナソニック)を閉鎖するにあたり、ただ単に売却するのではなく、約6.5ヘクタールの広大な土地を活用し、藤沢市の街づくりの方針に沿った協力が出来ないかを考えたもの。

現地では、スタッフの説明を聞きながら歩いて各施設や街並みを視察。見学中の写真撮影については住宅地であり、プライバシー保護の必要から禁止しているとのことでした。広大な敷地内の戸建家屋の屋根には太陽光パネルが設置され、公園ベンチの日除け、街灯、集会所などの建物にもパネルが設置されていました。

移動手段として自転車や自動車が考えられるが、敷地内には電気自動車や電動サイクルシェア、レンタカーデリバリー等を使い分けて提案・提供する「トータル・モビリティサービス」といわれる施設が数か所あり、快適さと環境にやさしい街づくりを実現しています。

その他、いわゆる図書館や飲食店、カルチャー施設などが「文化複合施設」として整備されており、敷地内住民だけではなく、他地域から市民が集っている状況がうかがえました。各所にかにも洗練された「湘南」の雰囲気醸し出していました。

現地視察の後半では、今後集合住宅(マンション)を建設する予定地(現在は市民農園になっている)などの広大な空き地、また既存の特養、サービス付高齢者住宅と保育所・学童保育所が併設されている施設を見学しました。またポツンとあるコンテナ施設では様々な電化製品をシェアする方法についての実証実験を行なっているとのことでした。

最後に、吹田市の健都でも「スマートタウン構想」がいわれており、既にパナソニック株式会社との連携協定を締結しています。敷地面積は2.3ヘクタール。JR岸辺駅前には国立循環器研究センターや市立吹田市民病院、商業施設、公園や図書館など順次整備されています。「Suita SST プロジェクト」がどのようにすすみ、地域と本市行政にどのように影響、貢献していくのか、注視していく契機になる有意義な視察となりました。現地関係者のみなさんに感謝し、視察報告といたします。